

奈良県地域医療再生計画の概要

(平成24年度国補正予算)

平成25年8月9日

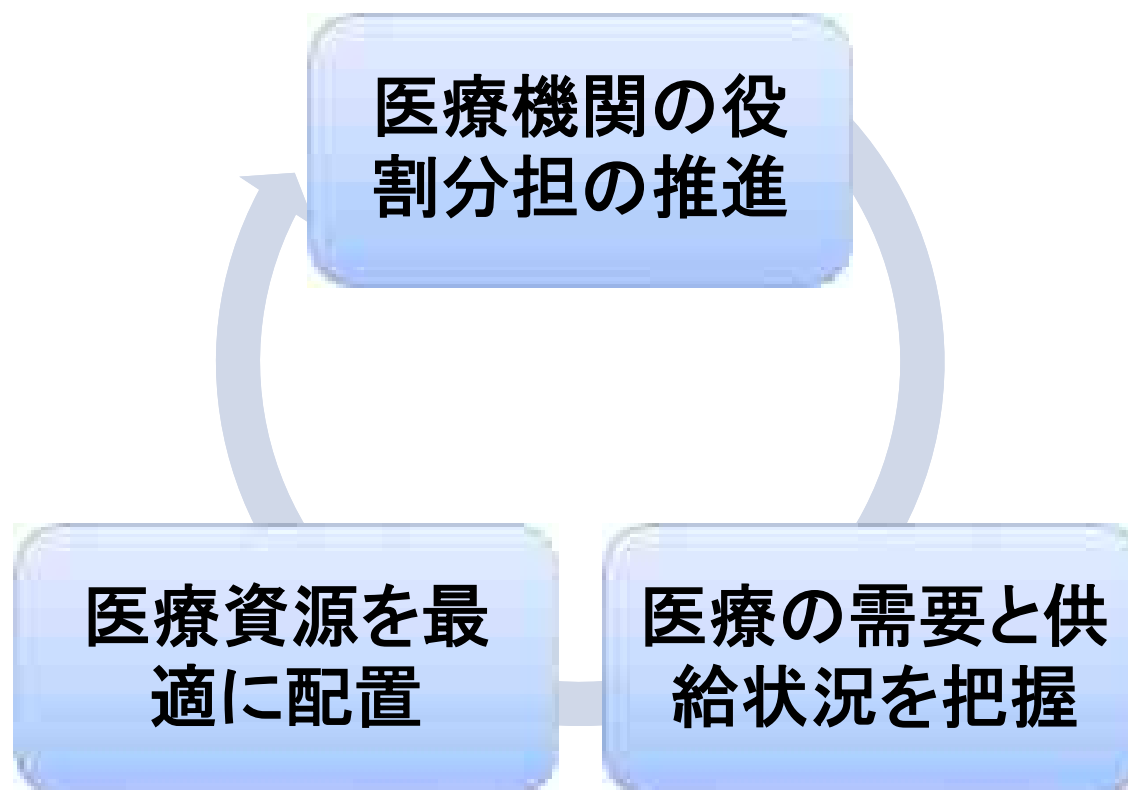
奈良県

奈良県における地域医療再生の基本理念

～ 必要な医療を適切に受けられる体制の確立 ～

医師の不足等により機能が低下した医療提供体制を再構築するため、地域医療の需要（患者）と供給状況（医療体制）を把握して医療資源を最適に配置し、医療機関が役割分担して地域で患者を診る体制の構築をめざす。

※ 平成21年地域医療再生計画策定当時の基本的考え方



奈良県における地域医療再生のための取り組み(既存の計画)

～ 地域レベルで医療の需要と供給のマッチングをめざす ～

ポイント① 医療機関の役割分担の推進

- 県内の2病院を「高度医療拠点病院」として整備
- 広大な面積の南和地域に医療を供給する公立3病院の機能再編
- 病病連携、病診連携を進めるため、地域連携パスを作成、運用
- 患者が適切に受診できるよう、365日24時間電話対応の救急安心センター設置・運営
- e-MATCH（携帯端末で救急の重要疾患の搬送先を選定できるシステム）の導入による適病院適患者の搬送

ポイント② 医療資源を最適に配置

- 配置する医師を奨学金で養成、看護師には就業支援や定着促進策の実施
- 県立医科大学地域医療学講座の運営により、地域の医療需要をふまえた「医師配置システム」の整備

ポイント③ 医療の需要と供給状況を把握

- 救急の重要疾患に診療タスクチェーンを設定し、疾患、重傷度、病期による医療体制の区分を設定
- 急性期、回復期、維持期別に、本県独自の指標体系を設定し、それを算出できるしくみづくり
- e-MATCHを利用した年間5万5千件強の救急搬送の疾患別状況を全数把握

奈良県における地域医療再生のための取り組み(既存の計画)

～ これまでの地域医療再生計画の進捗 (その1) ～

高度医療拠点病院(マグネットホスピタル)の整備

- 北和地域の高度医療拠点病院として県立奈良病院の整備を進行中 (平成28年度中に供用開始)
- 中南和地域の高度医療拠点病院として県立医科大学病院の整備を進行中 (平成27年度中に供用開始)

高度医療拠点病院として、周辺医療機関との連携強化により安定的な救急及び周産期医療体制の構築と総合的ながん対策など高度医療の充実を目指す。また、マグネットホスピタルとして医療従事者を安定的に確保する体制を目指す。

救急搬送・救急医療体制・小児救急医療体制の充実

- 北和地域の小児救急医療を充実するため25年度中に奈良市休日夜間応急診療所の整備を支援
- e-MATCHシステム(救急医療管制システム)を開発し運用開始
- 電話相談窓口として救急安心センター(#7119)の運営

#8000とあわせて1日平均相談件数 ㉓110.5件 小児救急では#8000の実施により、二次輪番病院への受診者が大幅に減少

医療連携体制の充実

- 地域でのスムーズな医療連携のため、医師と協働して「地域連携パス」のしくみを作成・運用開始

虚血性心疾患連携パス(中南和地域を中心に運用開始)、脳卒中連携パス(北和地域を中心に運用開始)

周産期医療体制の充実

- 平成22年から周産期母子医療センターのNICUや後方病床を整備

ハイリスク妊婦の県外搬送割合は減少するとともに県内受入件数は大幅に増加

㉑158件 → ㉓254件

奈良県における地域医療再生のための取り組み(既存の計画)

～ これまでの地域医療再生計画の進捗 (その2) ～

がん対策の推進

- 24年1月から地域がん登録の入力作業を開始
- 地域連携パス(5大がん10種類)のしくみを作成・運用開始

医療従事者の養成・確保

- 医師修学資金の貸付けや魅力ある研修プログラムの設置・運営
- 奈良県立医科大学「地域医療学講座」の運営
- 看護職員に対する就業支援や定着促進策の実施

25年の臨床研修医師募集定員マッチ者数の割合は、全国10位
看護職員の離職率が低下 ⑳13.4% → ㉓10.5%
看護職員の県内就業者数は増加

医療情報の収集・分析・提供

- 医療機能情報を収集分析し、病院の役割分担、連携するための情報共有のしくみづくりを進行中

救急の重要疾患について65項目の指標を設定し、医療の質について県立病院及び県立医科大学附属病院で評価を試行
今後、回復期について8項目の指標を設定して、「医療機能の見える化」に取り組んでいく。
インターネット上に「自分の健康と病気がよく分かるポータルサイト」を開設・運営

南和公立三病院の機能再編

- 平成24年1月に南和広域医療組合を設立し、1つの救急病院(急性期)と2つの地域医療センター(療養期)への機能再編に着手

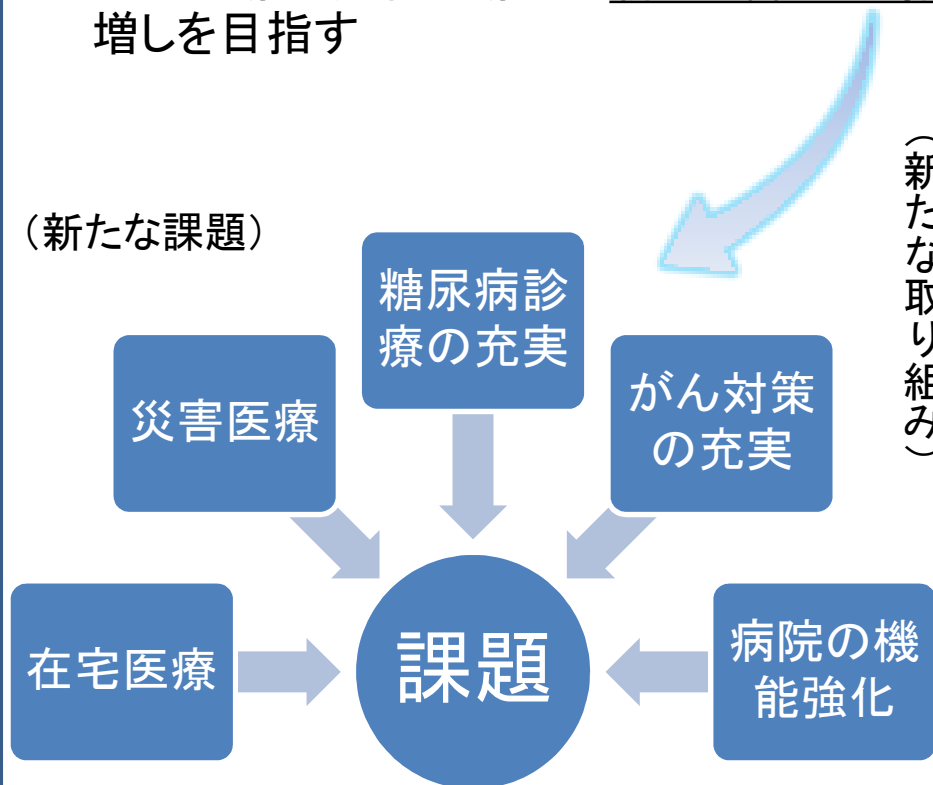
奈良県地域医療再生計画の拡充(平成24年度補正分)

～ 今回の地域医療再生計画(8億円プラン)の概要 ～

1. 現在の基金を繰り越して、引き続きこれまでの施策に取り組み、医師確保修学資金の実施に不足が生じないように、必要額について基金の積み増しを目指す

2. 在宅医療や災害医療など新たな課題の解決のために実施する事業の財源として、基金の積み増しを目指す

(新たな課題)



(新たな取り組み)

在宅医療	研修・啓発の実施。在宅医療の普及促進のための条件整備を支援。連携モデルの構築。小児在宅医療の充実。訪問看護師に対する支援。県内保健師の連携強化 等
災害医療	広域搬送拠点の整備 等
糖尿病がん	県立医科大学との協働による地域医療連携のしくみづくりと人材育成
病院機能の強化	高度医療拠点病院との役割分担の推進 南和公立三病院の機能再編に対する追加支援(建設コスト増への対応)

奈良県地域医療再生計画の拡充内容(具体的施策:その1)

(単位:百万円)

施 策		事 業 概 要	計 画 額 (内 訳)	
在宅医療	在宅医療サービスの充実・ 小児在宅医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療従事者等に対する啓発・研修等の実施や在宅医療サービスの普及促進のための取り組みを支援 ■ 予防・介護・健康づくりが連携した「健康長寿のまちづくり」の取り組みをモデル的に実施 ■ 在宅療養児に対する支援体制を整備するため研修会・カンファレンスを開催するほか、総合相談窓口として「小児在宅医療支援センター」を開設・運営 <p style="text-align: center;">※ エビデンスを収集・検証しながらソフト事業を中心に実施</p>	(151)	158
	訪問看護の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■ 訪問看護ST. の管理者に対する研修等の実施や連携のしくみづくり 	(3)	
	保健師ネットワークの強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保健・医療・福祉・介護等を横断的に、かつ予防から介護までを重層的に保健活動できるよう県内保健師の連携強化の取り組みを実施 	(4)	
災害対策	災害急性期の医療体制 整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 広域搬送拠点となる臨時医療施設(SCU)の整備 ■ 災害医療演習・研修会の実施、災害医療情報共有の充実 	(72)	72

奈良県地域医療再生計画の拡充内容(具体的施策:その2)

(単位:百万円)

	施 策	事 業 概 要	計 画 額 (内 訳)	
その他	医師確保修学資金の貸付け	■医師不足の診療科やへき地医療を志す医大生に対して、修学資金や研修資金を貸与	(46)	570
	がん対策の充実	■県立医科大学との協働によるがん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	(89)	
	糖尿病の診療水準の向上	■県立医科大学との協働による糖尿病診療水準の向上と連携パスの運用等医療連携のための取り組みを実施	(80)	
	県立病院の機能強化	■県立病院の独立行政法人化に伴い、県立三室病院の機能強化のため基本構想策定、建替え整備に向けた基本設計などを実施	(19)	
	震災後の労務費等の建設コスト高騰への対応	■南和広域医療組合による救急病院及び地域医療センター整備	(336)	
	合 計			800